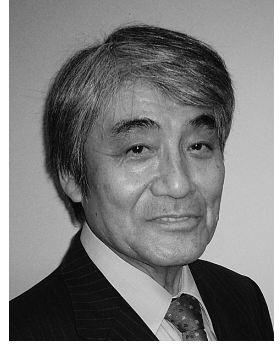


新たな挑戦に向けて



南山大学教授 腰塚 武志

このたび日本オペレーションズ・リサーチ学会の会長に選出されました。もとより浅学非才の身ではありますが、お引き受けした以上、皆様のお力添えで、なんとか会長職を全うすることができるよう努力していきたいと存じております。会長選考委員会で私が候補になったという報に接したとき、そろそろ現役を引退する時期を迎える自分の歳のことを考えました。もっと若いの方がふさわしいのではないかと。しかし最近の大学はあまりにも忙しすぎる。これは国立大学が法人化してから顕著になった傾向で、大学人はほとんど例外なく研究・教育という本業以外の学内の雑事に追われている。少し前までその渦中にいた私には痛いほどよくわかります。かつて研究というものは大学を超えて学会等が中心となって展開されてきたと思います。もちろん今もその機能に変わりはありません。ただあまりにも大学間の競争が前面に出すぎてきて、大学人の活動が所属する大学に縛られる傾向が増えている。そこで多少その忙しさから解放されている私にもお引き受けする意味はあるのかな、と考えた次第です。

このたび学会は新しい公益法人としてスタートすることができました。手探り状態で始まった新法人への移行については多くの方々、とりわけ歴代の担当理事の皆様の献身的なご努力によるものと思ひ、ここに心より敬意を表したいと思ひます。今年度からの新役員はその土台の上で活動できることに感謝しなければなりません。

ところで昨年3月日本は東日本大震災に遭遇し、現

在も苦難の道を歩んでいます。しかもこの災害は好調な日本を襲ったものではなく、以前から抱えていたさまざまな問題になかなか活路を見いだせないという閉塞感に覆われていたところに、追い打ちとなった大災害といえるでしょう。そしてこれによって、これまでの負の部分が顕在化するという道をたどっているように思ひます。少なくとも以前のような状態にもどる復旧ではなく、復興に課せられていることは、これまでの問題の克服という難しい課題にも直面していることを忘れてはならないと思ひます。

さてOR学会は上記のような不調の時代に、多くの学会と同じように会員数の減少という危機に遭遇しました。伏見会長、数土会長をはじめ歴代の会長や役員さらには会員の皆様のご努力で、今年度の総会では会員数が下げ止まったかに見える資料が披露されました。もちろんこのことだけで手放しに喜んではいけませんが、われわれ新役員はこれまでのご尽力を無にしないよう一層努力する必要があるでしょう。

言うまでもないことですが、日本が困難な局面に立たされている現実にORは応えていかなければなりません。先人達は、対象物がなんでもあれ、科学的態度でORの新しい分野を切り開いてきました。数土前会長の言われたORは「実学」でなければならないということも踏まえ、厳しい現実に対する新しい理論的枠組みに挑戦する必要があると思ひます。ここに皆様のご活躍と学会運営に対するご支援ご協力をお願いいたします。